

第212回 番組審議会

1. 日 時 平成24年5月8日(火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲 東の間」
3. 委 員 委員総数 12名
出席委員数 7名(欠席委員数 5名)

○ 出席委員(敬称略)

中村 慶久(委員長)
三浦 宏(副委員長)
—以下50音順—
久慈 浩介
斎藤 雅博
原 圭介
村上 幸子
役重 真喜子

○ 会社側出席者(6名)

佐藤 滋樹(代表取締役社長)
藤澤 利憲(常務取締役)
前田 秀男(取締役編成技術局長)
藤原 銀司(取締役営業局長)
一戸 俊行(総務局総務局長)
吉田 沙織(めんこいエンタープライズ 制作部)

○ 事務局 村田 重昭

4. 議 題 めんこいテレビ開局20周年特別企画
「帰ってきたアニキーッ! 故郷いわて復興構想SP」
平成24年3月31日(土) 15:30～16:25 放送

5. 議 事 概 要

今回は3月10日に放送した「めんこいテレビ開局20周年特別企画 帰ってきたアニキーッ！ 故郷いわて復興構想SP」を審議しました。議事の概要は以下のとおりです。

●岩手めんこいテレビ 一戸プロデューサーの説明

- ・めんこいテレビは2011年4月に開局20周年を迎え、この1年間、震災復興支援も合わせて周年事業を行ってきた。この番組は、その締めくくりとして企画制作した。
- ・その一環として3月に山田町の復興イベントに、めんこいテレビ20周年プロジェクトとして参加し、移動スタジオのカメラ体験やアナウンサーの読み聞かせを行った。当日夜に山田町の公民館で、この番組の公開収録をした。
- ・番組を企画制作するにあたり、まず若い世代の人たちが地元の復興に向けて、今どんな事を考えているのか率直に聞き、復興を応援するため、前向きな内容となるように意識した。

●めんこいエンタープライズ 吉田ディレクターの説明

- ・「アニキーッ！」は、若者たちが集って、地域の兄貴・姉貴的な存在の若者たちと、様々なテーマについて語り合うという形で2007年にスタートした。
- ・この番組の演出では「演出をしないという演出」を大切にし、若者の気持ちを率直に届けるために、彼らのありのままの気持が伝わるような現場作り、編集を心がけている。
- ・今回は震災復興がテーマなので、演出しない中でも演出する部分があった。まず、震災の映像は一切使用しないという事。震災に関しては成功事例というものが一切ないので、出演する方、岩手に住んでいる方たち全てが“兄貴”“姉貴”であるという設定にした事。涙を流したり悲しい思いをさせるシーンに、一切ならないようにするという事。最後に

今までの「アニキーッ！」のテイストである、笑いを少し入れるという事などである。

- ・若者たちが未来を見つめる姿を広く伝えるため、ユーストリームで収録の様子を世界に配信した。

●出席委員からの意見・感想

- ・番組に出演した11人が、とてもいいものを持っている個性的な若者で、良い人選だった。
- ・若者たちの率直な意見が頼もしく、復興に対する熱い思いが、見ている人に伝わるいい番組だった。
- ・出演者から勇気をもらい、彼らを応援したくなった。
- ・番組をユーストリームでも流したことは、良い取り組みであった。
- ・1時間番組なら出演者は半分にして、もっと掘り下げた話も聞きたかった。
- ・出演者が多過ぎて、ひとりひとりの背景が良く分からなかった。
- ・11人をただ正面を向いて並ばせるだけでは、ひとりひとりが思いを述べるのは難しいのではないか。対話の演出に工夫が欲しかった。
- ・司会者が話している時間が長く、出演者の話しをもっと聞きたかった。
- ・良くも悪くもサラッとした印象で、もっと悲憤慷慨に駆られるような尖った発言があっても良かった。
- ・復興をテーマとした「アニキーッ！」は、今後も是非続けて欲しい。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

7. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

* 平成24年5月9日（水） 産経新聞 東北版

* 平成24年5月19日（土）午前4時32分から4時35分まで「めんこいテレビ番
審りポート」内で放送

* 据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

8. その他の参考事項

特になし